

再評価結果（平成25年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名：西九州自動車道 一般国道497号 伊万里道路	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 九州地方整備局			
起終点：起点：佐賀県伊万里市南波多町府招 終点：佐賀県伊万里市東山代町長浜	延長：6.6km				
事業概要：伊万里道路は、唐津伊万里道路や伊万里松浦道路などとともに西九州自動車道の一部区間を形成する延長6.6kmの自動車専用道路である。本道路の整備により、伊万里市中心市街地の交通混雑の緩和や、物流拠点である伊万里港とのアクセス確保及び九州北西部の地域振興に寄与するとともに主要幹線道路である国道202号の代替路線の機能を有する。					
H7年度事業化		H18年度都市計画決定	H22年度用地着手	H一年度工事着手	
全体事業費	約249億円	事業進捗率	7%	供用済延長	— km
計画交通量	18,700～20,800台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体)	総費用 (残事業/事業全体)	総便益 (残事業/事業全体)	基準年 平成24年	
	(残事業)	185/207億円 （事業費：167/190億円 維持管理費：18/18億円）	431/431億円 （走行時間短縮便益：306/306億円 走行経費減少便益：69/69億円 交通事故減少便益：56/56億円）		
感度分析の結果：【事業全体】交通量：B/C=1.6～2.6（交通量±10%）【残事業】交通量：B/C=1.8～2.9（交通量±10%） 事業費：B/C=1.9～2.3（事業費±10%） 事業費：B/C=2.1～2.6（事業費±10%） 事業期間：B/C=2.0～2.1（事業期間±20%） 事業期間：B/C=2.3～2.4（事業期間±20%）					
事業の効果等 ①交流連携の支援 ・伊万里市～松浦市・唐津市間の所要時間の短縮 ②交通混雑の緩和 ・伊万里道路と並行する国道202号等における損失時間の削減 ③交通安全性の確保 ・伊万里道路と並行する国道202号の交通事故発生件数の減少 ④物流効率化の支援 ・重要港湾である伊万里港へのアクセス性向上が図られ、輸送コスト等の削減 ⑤安心できる暮らしの支援 ・災害時の迂回代替路として機能 ⑥救急医療活動の支援 ・伊万里市内から第三次救急医療施設（唐津赤十字病院地域救命救急センター）までの救急搬送を支援 ・救急医療活動のアクセス時間の短縮					
関係する地方公共団体等の意見 福岡市、唐津市、伊万里市等の関係8市4町の首長・議会議長で構成される西九州自動車道建設促進期成会（会長：伊万里市長）等より早期整備の要望を受けている。（平成24年8月）					
県知事の意見： 事業継続については、異議ありません。 佐賀県では、地域や産業の活性化や災害対策のため、地域間の移動時間や距離を短縮すること、また、予定している時間どおりに移動・輸送ができるようになることは非常に重要であると認識しており、このためには、県内の主要都市を結ぶ走行性の高い広域幹線道路ネットワークの整備が必要です。 今回、再評価される伊万里道路は「佐賀県総合計画2011」において、重点項目に位置付けている広域幹線ネットワークを形成する道路であることから、早期に整備を進めていただきたい。					
事業評価監視委員会の意見 審議の結果、事業継続					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					

- ・伊万里市の人口は横ばい傾向にあるものの、自動車保有台数は増加傾向にある。
- ・重要港湾伊万里港を核とした、伊万里団地や七ツ島工業団地への企業進出等により、製造品出荷額や伊万里市への通勤者の増加が著しい。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成23年度末の事業進捗率は、事業費ベースで約7%であり、そのうち、用地進捗率は約2%となっている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、事業効果を早期発現できるよう、引き続き用地買収を推進するとともに早期供用に向けて事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減を図る。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上、事業の効果、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。